

「看板で悲しむ人をゼロにする」 日本初！科学的根拠に基づいた 『看板の定期健診』『看板ドック』

レガール



街を安全にすることを大義名分に「人生を賭けてやり抜く」と話す高倉社長

界にすることを決意したという。

これまで一般的とされていた看板の点検方法の多くは「目視」や「触手」であり、感覚的なものとなっている。「看板の落下により何の罪もない通行人が大怪我をするリスクを、感覚に頼った点検で解消することはできない」と考え、科学的な点検基準、安全基準に基づいた健診サービスを同社が独自に確立した。この看板ドックは、建築基準法および国土交通省道路局の安全基準に準拠して検査を行い、数値で判定した検査結果を診断カルテとして提出する。

光る文字型のLED看板をはじめとする看板の製造・販売などを行うレガール（世田谷区千歳台、高倉博社長、03・5490・8180、<http://www.regalo-eco.com>）は、科学的根拠に基づく看板の定期健診サービス『看板ドック』を今年10月1日よりスタートした。

ある多店舗展開の店で、約30年経過した55本のポールサイン、照明柱を対象に同検査を実施したところ、過半数は即対策が必要となる危険な状態、3分の1は健全でそのまま使用できることが判明した。評価が明確なため、何本を補修し、何本をそのまま使用できるのかが分かりやすい。評価が曖昧な目視点検の場合はすべて撤去新設を余儀なくされ莫大な費用がかかるが、看板ドックは非常にコスト

安となり、「安心」「安全」「安価」を提供できる。

昨今、負傷者が出るほどの看板の倒壊・落下に関連する事故が全国で多発している。社長は、看板業界の旧態依然とした慣習や常識、平成16年頃から登場したLEDの急速な普及が原因と考え、看板業界を安全第一の業

数値で診断、カルテで報告



看板ドック

検索

車に車検、人に人間ドック、看板に看板ドック。「安全な看板、ひいては安全な街をつくりたい」と、高倉社長は熱く真摯に想いを語る。